



令和7年5月1日

スクリーンタイムを読み聞かせに

園長 田中 裕

社会福祉法人藤花学園 北野保育園

5月の予定



5月2日(金)	こどもの日の集い
7日(水)	誕生会 身体測定 本園1・2歳児
8日(木)	避難訓練 全園児健診(0歳児健診) 身体測定 分園0・1・2歳児
12日(月)	身体測定 5歳児
13日(火)	体育指導3~5歳児/COT4~5歳児 身体測定 4歳児
14日(水)	身体測定 3歳児
16日(月)	JACOT指導 4、5歳児
17日(土)	布団乾燥
20日(火)	体育指導3~5歳児/COT4~5歳児
27日(火)	体育指導3~5歳児/COT4~5歳児

絵本の読み聞かせの大切さは昔から言われています。「知ってはいるけど忙しいからついスマホでYouTube」という人も多いかと思います。では、読み聞かせは何がいいのでしょうか。

実は絵本の読み聞かせには代替不可能な価値があります。3~5歳の子どもが読み聞かせを聞いているときは脳の言語野が鮮やかに活性化することが確認されています。この脳の活性化はタブレットやテレビなど電子メディアでは見られないそうです。対話を伴う読み聞かせは、脳の言語処理回路を強化する独自の効果があるのです。

読み聞かせは単なる言葉の学習ではありません。親子の触れ合いの中で行われることで脳内にはオキシトシンという「絆ホルモン」が分泌されます。このホルモンは記憶の定着と情報処理能力を向上させると言われています。読み聞かせ中、子どもの脳内ではミラーニューロンという特殊な神経細胞が活発に働き、他者の行動や感情を鏡のように映し出す働きをします。これは共感性や社会性の基盤となります。「他者の気持ちを想像する力」は子ども同士や大人との人間関係構築にも大きく影響する重要な能力です。

アメリカの教育学者の「3歳までの経験による格差」という研究で読み聞かせの継続が「言語環境が豊かな子どもは、そうでない子に比べて3歳時点で語彙数に1,000語の差がある」となるそうです。

日常の忙しい中で読み聞かせを行うことは難しいかもしれませんが、5分でも10分でも読んであげることが大切です。これから大型連休になりますが、スマホのスクリーンタイムを減らして、ぜひ親子で絵本に向かい「絆ホルモン」を増やしていきましょう。

本園の園庭に鯉のぼりを出しました。

(黄と緑のこいのぼりはさくら組が皆で作りました。)

